

書式第14号（法第28条関係）

平成22年度 事業報告書

（平成 21 年 8 月 1日から 平成 22 年 7 月 31日まで）

認定特定非営利活動法人 サイド・バイ・サイド・インターナショナル

1 事業の成果

海外支援事業

カンボジア王国における救急救命・災害対策事業

- * 平成21年7月30日カンボジア政府との覚書に調印し、国際NGOとして正式に承認されたのに続いて、同年8月12日に、同国保健省と「緊急医療システム」構築事業に関する覚書を調印した。これにより、サイド・バイ・サイド・インターナショナル（以降SBSI）SBSIのカンボジア事務所が、同国政府及び関係機関と共に、ヘン・タイクリー保健長官が統括責任者である同国の19番救急医療事業を進めていく体制が整った。
- * 東京渋谷ロータリークラブの支援で、救急・救助訓練プログラムを平成22年3月21日より5月28日まで実施。対象は、国立カルメット病院及びフンセンブンラニー病院の救急隊員20名。訓練指導はJPRに委託。訓練開始式には、同ロータリークラブ・メンバー及び学生団体グラフィス代表メンバー、サイド・バイ・サイド・インターナショナル本部からは、理事長及び副理事長、理事、事務局長も出席。
- * 平成22年7月21日 グラフィス診療所（シアヌークビル県）が開院。同診療所の運営団体は、CDEP（The Cambodian Dormitory & Education Project）であり、サイド・バイ・サイド・インターナショナルは、当初から同団体と連携して、資金的・物的・人的支援を行ってきた。グラフィス診療所開院前に、大阪国際ロータリー2660地区から、医療ベッド、医療器材、医療機械、医薬品保管収納ロッカー3基、更に、開業に必要な事務用品等が寄贈され、患者受け入れ体制が整う。開院式には、同ロータリークラブメンバー20名とSBSI佐々木理事長が出席。開院1ヶ月で、2千人が診察を受ける。グラフィス救急車がグラフィス診療所に配置され、7月からは、24時間体制で活動中。
- * 平成22年5月20日から二日間、現地NGOサイド・バイ・サイド・カンボジアを通じて、ミシガン・フロント大学の看護科チーム総勢20人が完成間近のグラフィス診療所を訪問。医療ボランティアとして、120名以上の子供の健診と診療を行った。
- * 公立救急ネットワークシステムを開始。新たな道路開通や道路整備に伴い、交通事故も急増することから、コンポンチャム州の三つの公立病院に、救急車を1台ずつ寄贈して配備。毎月のデータがSBSI事務所へ報告される。他にもSBSIカンボジア事務所は、救急車を寄贈した国立クメール・ソビエト友好病院などの救急隊からも2008年から定期的に出動データを収集。
- * 平成21年8月、保健省にて、ヘン・タイクリー保健長官、保健省救急医療関係者、国立病院院長らと、SBSI日本本部理事長ら、SBSIカンボジア事務所所長・所長補佐、及び、カンボジアツアー中の学生団体グラフィスのメンバーが、救急に関する会合に出席。日本とカンボジアでの救急事情の説明などが行われる。当時のグラフィス代表栗山明子も、日本の学生として初めて、そのような場でビデオ映像を見せながら、学生たちのカンボジア支援活動についてのプレゼンテーションを行う。

- * 平成22年3月、SBSIのカンボジア救急隊訓練プロジェクト視察に訪れた東京渋谷ロータリークラブメンバー6名と共に、SBSI理事長らが、カンボジア王国救急事業の統括責任者であるヘン・タイクリー保健長官を表敬訪問。
- * 平成22年6月1日カンボジア事務所に、フランス人のジョゼット・ヴァヌールが、プロジェクト・マネージャーとして赴任。カンボジア事務所所長及び所長補佐の下で、事務所管理運営、支援先病院などの統計管理、救急事業広報等を行う。また、ヴァヌールの指導により、カンボジア人ボランティア学生たちによる、救急隊出動統計などの翻訳作業が開始される。

カンボジア王国のための緊急車両及び医療機器等輸送事業

- * 救急車7台、大型消防車 10台、中型消防車1台、指令車 6台、その他多数の医療機材、救急器材等をカンボジアに輸送。日本国内で、倉庫、作業所、駐車場を確保。引き取りから、国内輸送、梱包、輸出手続きなどを行う。現地での通関も現地事務所が担当。

年月日	40 フィートコンテナ	SBSI 救急救命災害対策事業支援
2009/8/3	40 F 1基	中型消防車、Cアームレントゲン、医療品
2010/1/24	40 F 2基	救急車1台、ドクターカー1台、指令車2台、救急器材
救急車4台 モバイルレントゲン1台、救急器材 2010/3/25	20 F 1基	アフリカ マラウイへ、ハイエース1台 NGOへ寄贈
2010/5/7 40 F 2基 2010/4/29	40 F 1基	指令車2台
2010/5/27	車専用船	特殊大型消防車 1台 北海道→東京→カンボジア→プノンペン
2010/6/17	40 F 1基	指令車2台 医療品、医薬品
2010/6/18	車専用船	大型消防車9台 (2トン 水タンク付ミニポンプ付) *1)
2010/7/13	40 F 1基	救急車1台、消防司令車バン、救急器材ミニポンプ4台、消防器材

- *1) 消防車9台は、日本消防財団からカンボジア王国政府への寄贈。在日カンボジア王国大使館より正式依頼を受けて輸送。消防車は、7月26日カンボジア警察庁プノンペン州警察新消防署へ配置された。* 添付資料 寄贈式典

カンボジア教育スタディツアー&視察ツアー

スタディツアー

第4回 夏 カンボジア医療・教育スタディツアー

21年8月14日～20日 大学生27名 社会人3名 合計30名参加

第5回 春 カンボジア医療・教育スタディツアー
22年3月16日～21日 大学生3名 社会人5名 合計8名参加

視察ツアー

東京渋谷ロータリークラブ
カンボジア救急隊員養成プログラム
22年3月19日～25日 10名参加

大阪国際ロータリー2660地区
22年7月19日～7月23日 20名参加

SBSI日本本部によるカンボジア訪問活動期間

22年8月14日～9月4日まで

22年3月16日～4月4日まで

22年7月19日～7月24日まで

その他のカンボジア支援事業

- * 現地NGOサイド・バイ・サイド・カンボジアが運営し、SBSIが支援するルムドア島のサイド・バイ・サイド小学校の建設が進み、1階部分の2教室で授業開始。年3回、シンガポールから大学生約30名が来て、ボランティアで学校建設を手伝う。ほとんどの生徒が貧困家庭からで、給食支援も行っている。

国内支援事業

- * 野宿者に炊き出しを行う新宿連絡会への支援を継続。同会へ、寄付金と米120kg寄贈。
- * 平成22年5月26日東京へ研修旅行中の、中津川市立第二中学校の中学生10名のために 青少年オリンピックセンター会議室にて、カンボジアを支援する日本の大学生も交えて、日本とカンボジアの貧困についてのセミナーを実施。
- * クリスマス・チャリティーイベント カンボジア救急救命事業支援のため。22年12月27日、ホテル西洋銀座にて。出席者113名 活動報告とチャリティーパーティー。カンボジア大使館より、大使代理として一等書記官らが出席。日本とカンボジア人の学生たちがボランティアとして参加。
- * 平成22年7月 川崎市の障害者作業所を運営するNPO法人大師ワークショップの一泊バス旅行の付き添いボランティアとして佐々木明子事務局長が参加。
- * 野宿者や社会復帰中の元野宿者、ひきこもり者対象のカウンセリング。
- * 平成21年8月東京にて、平成22年7月福岡にて、海外支援を実施または実施を考えている学生ボランティア団体の会合でスピーチを行う。代表者などへの個別カウンセリングも行う。その他の学生団体からの相談も受ける。

平成22年度 事業報告書

(平成21年 8月 1日から 平成22年 7月 31日まで)

(1) 特定非営利活動サイド・バイ・サイド・インターナショナルに係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
国の内外を問わず貧困や災害で苦しむ人々への、食料、医療機器等の援助	(1~8)「カンボジア救急構築事業」 病院支援物資40フィートコンテナ8本送る 特殊大型 消防車1台輸送 大型消防車9台輸送 カンボジア教育スタディツアー	21年8月3日 22年1月24日2本 22年3月25日 22年4月29日2本 22年5月7日 22年6月17日 22年5月27日 1車船 22年6月18日 9車船 21年8月14日~20日 22年3月16日~21日	カンボジア王国	6名	150万人 カンボジア国民 大学27名 大学生8名 社会人13名	\31,409 物資寄附 \10,880
国の内外を問わず貧困等に苦しむ人々(ホームレス等)の自立支援や援助のための食料や住居やケア-並びに教育の提供	(1) 報告会、及び、カンボジア、支援物資を寄贈するための活動	21年12月27日	東京都中央区 銀座1-11-2	17名	150万人 カンボジア、の国民、子供達	\1,516
国の内外を問わず貧困等に苦しむ人々(ホームレス等)の自立支援や援助のための食料や住居やケア-並びに教育の提供	(3) ホームレスの自立支援として、カウンセリング、食料、住居や教育の提供、物資援助	炊き出し支援 12月27日からの炊き出し支援 夏祭り21年8月14日	新宿中央公園	24名	400人 ホームレス 夏祭 500人 冬年越し 600人	\25 物資 米120KG
国の内外を問わず、子供の健全育成のためのセミナーの開催	(4) 人間関係での上司と社員、また、親と子の関係などのクラス	7月	代々木オリンピックセンター	4名	一般市民 10人	\1

